



# 宝城中学校だより

令和6(2024)年4月19日

第3号

校長 小田 哲也

学校教育目標：「集団の力を活かして、よりよい社会の創り手として「自走」できる生徒の育成」

## I 新学期が始まって2週間が過ぎました。(ご報告)

令和6年度がスタートして約2週間が経ちました。この間、ここでは紹介しきれないほど、様々な活動が行われました。新しい年度を迎えて、2,3年生は「今年こそは、頑張るぞ」という気持ちを持って、表情も引き締まっているように見えます。この「やる気」が1年間続くことを祈っているところです。1年生は「中学生になったら…」という気持ちを持って、大変、落ち着いた学校生活がスタートしています。この集中力が3年間続くことを祈っていますが、とにかくこれからの2か月手を抜かず、しかし頑張りすぎないようにして、学校生活の習慣化につなげて欲しいと思います。



4月5日始業式



4月8日教科書配布



4月10日入学式



4月11日対面式



4月11日部活動紹介①



部活動紹介②



部活動紹介③



部活動紹介④



1年生学校探検



4月12日生徒総会学活 4月15日中1安心プロジェクト 4月16日交通安全教室

## 2 教科書無償の取組の話

毎年、教科書を配布する際に「教科書無償」の話をしています。2、3年生は4月8日、1年生は4月11日に教科書を配布いたしました。保護者の皆様も聞いたことがあるのではないのでしょうか。

今から60年ほど前、差別や貧困によって学習する機会を保障されなかった親たちの「我が子には、十分な教育を受けさせたい」という強い願いから教科書無償の取り組みがはじまりました。親たちやその考えに賛同する教職員たちとの間で学習会が始まり、その中で憲法に「義務教育はこれを無償とする」とあることに気づきます。そのことから、教科書が無償で配布されるように求める運動を展開していったのです。この運動は多くの人々の賛同を得て全国に広がり、ついには国を動かし教科書の無償を実現したのです。

私は、この教科書無償の取組について学ぶことをとおして「すべての人の学習する権利を守ること」の大切さや「子どもを思う親の願い」に気付いてほしいと考えています。また教科書を手にした時に「学ぶこと」の意味をしっかりと感じて、感謝の気持ちで学習に臨んでほしいと思います。

## 3 学校教育目標について

本校では、校訓「自主」「勤勉」「感謝」のもと、小郡市がめざす、

夢や願いに向かって逞しく進み、人とつながりあって心を働かせ、  
喜びあふれる豊かな郷土をつくりだす小郡の子ども

の達成を目指して教育活動を進めております。そこで本年度は、昨年度の生徒の様子や意識調査の中で課題が見えたところから、学校教育目標を設定いたしました。

学校教育目標

「集団の力を活かして、よりよい社会の創り手として「自走」できる生徒の育成」

この学校教育目標は、4月5日から、教室に掲示しています。生徒の皆さん、気づきましたか？

意味を説明します。「集団の力を活かす」とは、「周りの人たちと協力する・協力してもらうことや周りの人を活かす→元気にする」という意味、「よりよい社会の創り手」とは、「様々な分野で社会に出た時に活躍し貢献できる人」という意味「自走」できる」とは「自ら学び続け、未来に待ち受けている課題や困難を乗り越えていくことができる」という意味を込めています。

私は、生徒の皆さんが自身の人生の主役として、逞しく成長することを期待しています。